

平成30年度第1回教育課程編成委員会 記録

日 時：平成30年6月15日（金）14:00～15:30

場 所：名古屋芸術大学保育専門学校 本館2階会議室

委 員：小川英彦(愛知教育大学教授 有識者委員)、

高田道雄(マハヤナ幼稚園長 保育科第二部企業等委員)、

鎌倉 博(名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園長 保育科企業等委員)、

水越省三(愛知県私立幼稚園連盟理事 業界団体委員)、

武石協子(社会福祉法人NUAたきこ幼児園長 保育科企業等委員)

藤澤卓美(校長)、杉浦宏幸(副校長)、木村節治(保育科長)、加藤由美(教学主任)

議 長：藤澤校長 (記録：杉浦宏幸) (敬称略)

1 開会のあいさつ

副校長から開会の挨拶がされた。

2 校長あいさつ

校長から出席者への挨拶後、職業実践専門課程の取り組み、再指定申請中であることの報告があった。

3 委員の委嘱について

「名古屋芸術大学保育専門学校教育課程編成委員会内規」(別添資料1)の説明後、別添資料2に基づき出席者紹介があった。

4 本校の概要

(1) 平成30年度教育理念・教育目標・求める学生像・めざす学生像・経営方針・職業実践専門課程の認定について、別添資料3に基づき校長より以下の概要説明があった。

卒業時の姿としてのめざす学生像は次の4点に絞って考えている。①保育者としての基本的な知識、技術、マナーを身につけている。②子どもの発達の基礎を実践的に学び、子どもを理解する力が優れている。③子どもの願いを汲み取る対話力に優れ、子どもの願いに応える計画作りができる。④自ら学んでいく意欲や保育者としての使命感とともに、協働の心、奉仕の心を身につけている。これらに向かうために、第1に現場がある専門学校としてどこを強調していくのかを検討する。第2に学生の持つ力をできるだけ発揮させる。次に、教職員の学生に対する温かい眼差しを大事にする。いい先生に接した学生は、いい先生になるものである。最後に、実習に重点を置いて考えていことである。

次に、経営の方針としては、学生支援の重点を4つ、教職員の重点努力目標を5つ決めて取り組んでいること。

さらに、職業実践専門課程への取り組みとして、実習の充実、外部評価・意見の反映、教員の研修の充実、専門職大学を視野に入れた取り組みにどう取り組んで行くかが課題である。

次に、職業実践専門課程に関わる「新しい実習方法」実践の取り組みと成果についての報告があった。プレ実習の方法、教育実習Ⅰへの取り組みの成果として、学生の気づきの交換から気づきの幅が広がったこと、子ども理解の深まり、主体的な教師の働きかけ、子どもを主体とした指導計画の作成、幼稚園の全体像の把握、教師としての心構えなどの成果についての報告があった。

- (2) 平成 30 年度学生数状況について、別添資料 4 に基づき木村より概要説明があった。
- (3) 平成 29 年度就職状況について、別添資料 5 に基づき木村より概要説明があった。
平成 30 年度 名古屋芸術大学保育専門学校パンフレット・平成 31 年度入学生名古屋芸術大学保育専門学校学生募集要項（別添冊子資料）・オープンスクール等の案内について、杉浦より紹介があった。
- (4) 教育課程について、講義要項 2018（別添冊子資料）について、杉浦より紹介があった。
- (5) 平成 30 年度前期・後期時間割表について、別添資料 6 に基づき、木村より概要説明があった。
- (6) 平成 30 年度年間事業計画について、別添資料 7 に基づき、木村より概要説明があった。
- (7) 教育・保育実習の取り組み・実習期間について、別添資料 8 に基づき木村より概要説明があった。
- (8) 職業実践専門課程（企業団体等との連携）の取り組み（成果）について、別添資料 9 に基づき、(1)のところで校長より概要説明があった。続いて、プレ実習の取り組みの説明が杉浦から説明があった。
- (9) 自己評価・学校関係者評価について、別添資料 10 に基づき杉浦から概要説明があった。
- (10) 学生による授業評価について、別添資料 11 に基づいて、杉浦より概要説明があった。
29 後期には向上している旨の説明があった。
- (11) 平成 29 年度第 2 回教育課程編成委員会意見の反映について、別添資料 12 に基づいて、杉浦より概要説明があった。その中で、4 項目について委員による改善に向けての提言があり、それに向けて改善を進めて行きたいとの説明があった。
- (12) 再課程認定（教育職員免許法の改正に伴う）に伴うカリキュラム編成については、申請予定のものが資料として出され、その概要説明が木村よりあった。
- (13) その他として、平成 29 年度各種奨学金等受給状況一覧について、別添資料 14 に基づいて木村より概要説明があった。

5. 協議（説明に関する質疑・ご意見）

委員・職業実践専門課程の企画・特色づくりを本校は進めていることが分かる。隣に幼稚園・幼児園があるからできることである。さらに、カリキュラムの組み方も有効活用されていることがうかがえる。今後、学生の育ちをさらに検証をしていく必要を感じる。このことが、方向の武器となる。

校長・職業実践専門課程のことが、高等学校にも少しずつ理解されてきていることを感じる。他の専門学校とは違い、ワンランク上であるというには、やはり学生の姿として示していくことが大切であると考えている。実践していることを成果としてまとめていきたい。また、学生が幼稚園・保育園の全体像を見ることができるようにもなってきていると感じる。

委員・取り組みの説明の中で、個ではなく集団で学び合いをしていることも特色である。

校長・この取り組みとしては、はじめは個人で考え、次に集団で話し合うことを取り組んでいる。このことが、気づきの広がりを持たせており有効に働いているように思う。

委員・このことは、保専と幼稚園・幼児園が附属的な関係と捉えることができる。学生数と園の受け入れ可能数とのマッチングができています。

校長・愛教大では、どのような園へ実習をさせているのか。

委員・実習園を決める場合、半数は、愛教大の附属幼稚園、他の半数は、学生の地元の公立幼稚園をお願いしている。地元をお願いすることは、就職についても利点があると考えている。

委員・本校が取り組んでいるプレ実習、教育実習Ⅰの取り組みを公開していくことが大切である。この取り組みが、学生募集にもつながってくる。

校長・本校が職業実践専門課程を取っているということを、どうアピールしていくかがポイントである。現場との連携していくことがポイントだと捉えている。

委員・先ほどの説明で保育系への就職が多いと思う。出口がしっかりとしていることも学生募集につながる。

委員・就職率を見た場合、「保育専門」学校としての実績をかなり達成している。その意味で、入学者数増と退学者減をめざして、カリキュラムと授業の満足度の向上、学校環境整備（公的補助を一層活用した学費減免等）に努めたい。また、採用試験対策も重視し、公務員合格者を増やすようにしていきたい。

木村・昨年度は、公立に5名合格している。このこともアピールをしていきたい。保育士の社会ニーズはある。

委員・学生の中には、本校でもそうだが、障害者施設へ就職している学生がいる。このことは、施設実習が就職につながっていると考えます。

校長・働きながら学ぶ制度は少なくなってきたが、ニーズはある。

委員・かつては3部という制度があったが、少なくなってきた。働きながら資格を取ってほしいというニーズはある。

委員・芸大への編入が昨年度3名いた。このことができることは学生の要望が広がっていきよい。

委員・名芸大が授業の単位取得の上限を抑制してきたことで、本年度編入した学生が困っていた。編入学についての再確認が必要である。

木村・これまで10名ほどの学生が編入している。大学への道が開かれていることも大き

なメリットと考える。今年度、問題となった点を再確認していく。

委員・カリキュラムを組むことは大変であるがうまく組まれていると思う。学校の特徴を出していくために、プレ実習、幼稚園での教育実習Ⅰのような目玉的な取り組みをさらに進めていきたい。その為に組むのに苦労されていることが分かる。取り組みも、きめ細やかにされており、教育の本道を歩いている感じがする。

委員・同じキャンパス内にある幼稚園と幼児園との連携を進めていることは素晴らしい。とりわけ教育実習Ⅰに向けた「新しい実習方法実践の成果」で生の児童の姿から「気づき」が深められている。実習に向けて、幼児理解、保育理解を深めておく上で大切である。この成果が、さらに「保育所実習」に向けて取り組まれたら二重三重に素晴らしいことである。

校長・この取り組みは、滝子幼稚園だからできることであり、幼稚園の先生方の実習生指導は大変である。

委員・保育園での実習の学生の希望として、乳児希望は高いものがある。

校長・このことは、学生の就職先を見ても感じることである。保育所でも乳児を扱っていない場合もあり、実習先を選定するときには、確認が必要である。

委員・31年度のカリキュラムの特色として、音楽・図画工作・幼児体育が特色である。これも強みとしていきたい。5領域の指導法の充実、科目内容の充実も進めていく必要がある。

木村・幼稚園の行事(作品展)へ参加することを授業の中で位置づけて取り組むこともしている。

委員・在学中の地域貢献(他の幼保や地域のイベント応援等)を進め、それを広報することでイメージアップをしていくこともよいことである。

杉浦・現在は、幼稚園行事への参加のみであるが、地域への活動へも広げていくことを考えていきたい。

校長・多くのご意見ありがとうございました。教職員で検討を進めていきたい。

6 今後の予定

・次回開催 平成30年10月12日(金) 14:00～